

蟻の列ちよいと道草する奴も

藻の花に田水溢れる一処

五月雨に独り佇む不登校

美貴



弘

○古傷のひとつは胸に梅雨に入る

○しんしんと腹の空くなりひきがえる

山滴るや戦争は好きですか

○こぼれびが前頭葉に滴るる

○物干しにダラリと喪服靴下も

お隣りの紫陽花ですが咲きました

酔花

家中のカーテン洗い梅雨入かな

滴りの岩壁すがる岩煙草

電線の産毛残りし燕の子

初江

○鎌倉のあの寺この寺梅雨に入る

○蟻の列キャットフードに来て止まる

滴りの牢に正座の役者A

丞子

○滴りの眼光きらり杉小立

おさがりのゴム紐締める早梅雨

前の森声の隙間を時鳥

○滴りや天からの星流れ込み

滴りや溪谷の闇深くなり

滴りや鍾乳洞が抱きし壺

えり

○兄たちがぼわりぼわりと螢沢

雨乞の太鼓を叩く紅の帯

梅雨晴間ポツプコーンはアメリカ産

笛子

美和

黒南風や大橋脚に体当たり

家々の夕餉の明かり栗の花

代替り裏返りたる額の花

○石筍にしたたりの又ひとしづく

日本の農に織り込み済の梅雨

雨乞ひもちらほら入梅やうやくに

夕子

梅雨間近土佐路うならせツーリング

枇杷に傘立て掛け香り農道に

岩滴るクライミングに頬を濡らし

富江

郁代

○入梅や薄墨羊羹厚く切る

○子らを待つ新ジャガコロツケ俵型

五合目の山滴りを両の手に

万貴

○寺の鐘やゝくぐもりて梅雨に入る

滴りを五体にかけて蘇生する

ブラックホールにもある梅雨の入り

ゆの

抱きし子と共に柄を持つ日傘かな

表札の残る空家や花櫛

滴りのゆるき音色や山深し

道彦

○けもの道かきわけた手に滴りを

梅雨晴れ間犬一匹の飲み屋街

睡蓮にさざ波寄するモネの庭

保明

梅雨晴れやこがねの風に舟をこぐ

石垣に沿うて一列茗荷の子

道沿いに並ぶ葵ににらまれて

まり

○夕暮の良心市の瓜温し

滴りや指揮棒のごと羊歯揺らす

梅雨晴間母と幼女は唄いつつ

紀代

はちきんの店入梅の気配無し

この村に戦死者幾人滴りぬ

滴りや晩年ふいに背に來て

味元 昭次 作品

阿波訛聞きし廃校水族館

紅の合歓空にあり走り梅雨

佐和子

梅雨寒の武器買う男媚を売る

朝刊の「やまもも」の詩の滴りて

賽の目の豆腐を落とす沖縄忌

